

「市長と地域ふれあいトーク」を実施

お問い合わせ

広報広聴課 ☎22-7438



▲勿来地区行政嘱託員（区長）連合会の役員の方々と市長

5月19日、市長は勿来地区行政嘱託員（区長）連合会の役員の方々と勿来の各地域（植田・錦・勿来・川部・山田）における活動内容や植田ふれあい広場、関田ふれあい隊による高齢者の生活支援、中山間地域の人口減少などについて意見交換を行いました。

また、山田奴等の伝統文化の継承や、安寿と厨子王祭り等への若い世代の参加など、地域活動の担い手不足の解決に向けて話し合いました。

写真が語る「いわき」の歴史



築港に尽力した小野晋平

小名浜港は日本鉄道磐城線（現・常磐線）が開通した後、一時衰退したのですが、大正時代に入ると、鉄道運賃が値上がりして船賃との差がなくなり、また、船舶の大型化により安定輸送が確保できるようになって、海送は陸送に対抗できるようになっていきます。

小名浜では内務省の「重要港湾の選定、施設の方針」に向けた運動を展開し、明治44（1911）年に「小名浜築港期成同盟会」が結成されて以降、大正時代後期からは県議会議員の小野晋平などの政財界が湯本、小名浜の鉄道敷設を目指す磐城炭礦（株）と連携して港湾整備の働きかけを行いました。

この運動が功を奏し、小名浜港は昭和2（1927）年、第二種重要港湾の指定を受け、国の直轄事業として、昭和4（1929）年度からの事業開始が決まりました。

しかし、内閣が入れ替わり、予算は大幅削減。この措置に危機感を抱いた小名浜町の関係者・市民は、県知事から本省への陳情を示唆され、町民大会でその報告をしたところ、予算権を持つ内務省への直接陳情を行うことになりました。



小名浜の発展に尽力した小野晋平の像（小名浜字栄町）・小名浜みなと学 [令和4（2022）年10月 いわきジャーナル撮影]

小野晋平が責任者となった陳情代表団217人は分散して上京。昭和4年7月、代々木ヶ原に、白たすきに白鉢巻の姿で集結しました。途中、警視庁警察特攻隊に見とがめられ、一触即発の場面もありましたが、内務大臣などに直接陳情することができました。結果として修築予算は若干の減額にとどまり、復活。修築工事は昭和4年度から支障なく進められ、昭和13（1938）年度に3千ト岸壁が完成しました。

小名浜港の整備を巡る運動は、官民を挙げての、文字どおり地域ぐるみの運動として名を残しています。

（いわき地域学会 小宅幸一）